県立長崎図書館だより

いくだたみ

No.182
2017年 7 月

第40回 県立長崎図書館講座

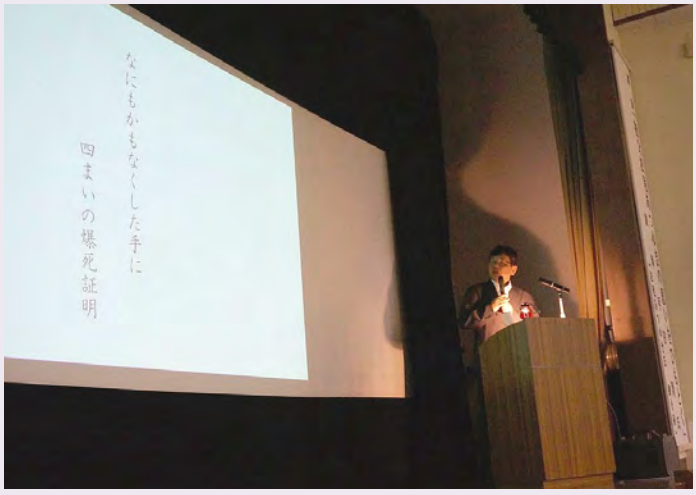
講演「祖父松尾あつゆきの思いをひもとく」を開催しました。

県立長崎図書館では、県民の皆様に本県の文化について学習していただけるように、年３回の図書館講座を開催しています。本年度第１回講座は、７月１日(土)に、原爆俳人松尾あつゆきの御令孫である平田周氏を講師としてお招きし、「祖父松尾あつゆきの思いをひもとく」と題した講演をしていただきました。

最初に、松尾芭蕉や正岡子規の句と松尾あつゆきの自由律俳句がどのように異なるか、ユーモアを交えわかりやすく解説してくださいました。続いて、『原爆句抄』の中の代表句について、あつゆきが遺した日記をもとに、句に込めた思いを語っていただきました。

あつゆきの日記を淡々と朗読する平田氏に、聴衆は引きこまれ、中でも妻の千代子を火葬している最中の玉音放送のくだりは、圧巻で感動的でした。祖父の思いをひもとくために、丹念に日記を読み込み、その本意を語り継ぐ姿勢に、会場の皆さんは大いに感銘を受けたようでした。

被爆地長崎に生きる者として、これからなすべきことを考えるきっかけとなる講演でした。



もくじ

◎ 第40回県立長崎図書館講座……Ｐ１
◎ 長崎ゆかりの文学展第１回・第２回企画展……Ｐ２
◎ 県立長崎図書館講座第41回・第42回のご案内……Ｐ２
◎ 館長就任あいさつ……Ｐ３
◎ 長崎ゆかりの文学展第３回企画展のご案内……Ｐ３
◎ 資料紹介（みんなが楽しめる図書館の本）……Ｐ４
◎ ようこそ！こども室へ（おはなし会とおりがみ教室)……Ｐ５
◎ 長崎県読書グループ連絡協議会文化講演会……Ｐ６
◎ 平成29年度県立長崎図書館公開講座のご案内……Ｐ６

長崎ゆかりの文学展

本館４階の郷土資料展示室では、本県にゆかりのある作家や文学作品を中心に、「長崎ゆかりの文学展」として、年４回の企画展と常設展を開催しています。

第１回企画展「長崎の芥川賞・直木賞作家展」－好評のうちに終了－

今年度第１回企画展として、４月２５日(火)から６月２５日(日)まで、「長崎の芥川賞・直木賞作家展」を開催しました。長崎ゆかりの芥川賞作家６名（森敦、野呂邦暢、林京子、村上龍、青来有一、吉田修一）と直木賞作家２名（穂積驚、白石一郎）の直筆資料や受賞作を中心とした刊行本を展示しました。

中でも野呂邦暢の芥川賞受賞作『草のつるぎ』や林京子の芥川賞受賞作『祭りの場』の直筆原稿には、多くの方が足を止めて下さいました。活字からは読み取れない著者の思いを直筆の資料から感じ取っていただけたようでした。

第2回企画展「原爆文学展」開催中

現在は第２回企画展として、「原爆文学展」を開催中です。

今年で長崎に原爆が投下されてから７２年が経過します。原爆投下から今日に至るまで、長崎ゆかりの文学者や被爆者の言葉の力によって「長崎の原爆文学」が生み出されてきました。今回の企画展では、先日講演をいただいた平田周氏所蔵の松尾あつゆきの遺品・直筆原稿や２月に亡くなられた林京子の直筆原稿・色紙等を中心に展示しています。この機会にぜひ直筆の資料に触れ、著者の思いを直に感じてください。会期は９月３日(日)までです。ご来館お待ちしています。

県立長崎図書館講座のご案内

第41回（平成29年度第２回）

県立長崎図書館講座

「長崎・天草地方の潜伏キリシタン関連遺産
～希望の海　角力灘を越えて～」

講師：岩崎義則氏（九州大学人文科学研究院准教授）

日時：平成２９年９月１６日(土)　１３：３０～１５：３０

場所：県立長崎図書館　２階　講堂

第42回（平成29年度第３回）

県立長崎図書館講座

「生誕１００年　宮崎康平を語る」

講師：宮崎和子氏（宮崎康平氏御令室）
　　上村紀元氏（上村肇氏御子息　伊東静雄研究会責任者）

日時：平成２９年１１月１８日(土)　１３：３０～１５：３０

場所：県立長崎図書館　２階　講堂

※長崎ゆかりの文学展第３回企画展と連動

県立長崎図書館「新任館長として」

所蔵されてきた児童書群について

館長　北川　英一

この春、館長を拝命いたしました北川英一と申します。どうぞよろしくお願いします。皆さまには平素より県立長崎図書館をご利用いただき、心より感謝申し上げます。

先日、新図書館の準備会で、教父アウグスチヌスの「TOLLE, LEGE（とりて読め）」の倫理授業の記憶から、着任後、出勤時に通る書架に置かれた、奇しくも本館が開館した年に出版された『少年少女世界名著全集　プルターク英雄伝』を開いた話を、おもわずしてしまいました。著者のまえがきに「これらの英雄たちは、みんな知恵と勇気にあふれ、それぞれに自分の正しいと信じた道を、いっしょうけんめい、どんな困難にも屈せず、すすみました。（中略）ローマの**大将**スキピオは、カルタゴ城外の丘に、**馬を立て**、足もとに、いましも燃え滅びていくカルタゴを見て、こんなことをいいました。『アッシリアは、すでに滅び、ペルシア、マケドニアも滅びた。そして、いまやカルタゴも燃えつつある。つぎにくるものはローマであろうか』どんなに強い人でも、強い国でも、滅びてしまいます。運命には勝てません。（中略）歴史を読むことは、おもしろいことです。いろいろなことが感じられます。（中略）どうか、いちど読んでも読みすてないで、また、いつか、とりだして読んでください。そのたびに、また、ちがったことを感じるでしょう。」※

この児童書は、図書館長として「良き本を収蔵して県民に提供奉仕する。」という使命を再認識させてくれました。第一に、「子ども時代に読んだ本を、大人になって読み返したり、自分の子どもに読んでやろうと思うけれど、その本が見つからないとき、図書館はお役に立てる」ということ。第二に、「こども向けの本には（面白いけれど正確でない。あるいは、正しいけれど読みにくい。）ものが少なくないので、良書を選書収蔵することがいかに大切であるか」ということです。今回紹介した本は、原本は誰もが知る名著であり、特に感銘したのは、私が子どものときに感じた疑問に応えてくれていること、すなわち「『カルタゴの名将ハンニバル』は、ギリシア・ローマの英雄でないので原本では章立てされていませんが、本書では少年少女の期待に応えて、特筆してくれていること」です。牽強付会でありますが、営々として収蔵されてきた県民の財産である百万有余の蔵書群を、新図書館に遺漏遅滞なく移し、可及的速やかに再び、県民の皆さまに提供奉仕できるようにする、６０年に一度の大事業は、あたかもハンニバル将軍が象を連れてアルプスを超えた覇業を髣髴とさせるものであります。今回ご紹介したこの児童書は、「本」が人を励ます力を持つ人類屈指の器であることを顕してくれています。私ども長崎図書館職員一同、全県民への図書を通じての奉仕任務に微力を尽くしておりますので、どうぞご理解ご支援をよろしくお願い申し上げ、着任のご挨拶といたします。

謹白

※参照文献

「プルターク英雄伝　下　少年少女世界名著全集ローマ編」
プルターク／原著　木村庄三郎／著
岩崎書店　１９６０．１２

次回の企画展のご案内

平成29年度「長崎ゆかりの文学展」

（第３回企画展）

「生誕１００年記念　宮崎康平展」

期間：平成２９年９月２６日(火)～１２月２４日(日)

時間：９：３０～１７：００（ただし休館日を除く）

場所：県立長崎図書館　４階　郷土資料展示室

※第４２回（平成２９年度第３回）図書館講座と連動

資料紹介 《みんなが楽しめる図書館の本》

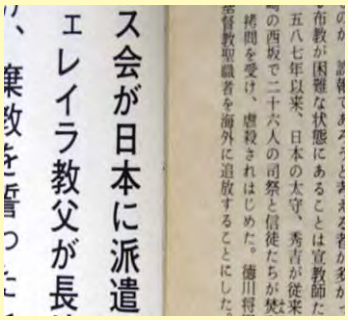
県立長崎図書館では、店頭であまり見ることがないような本も多数所蔵しています。

例えば、小さな文字が読みづらい人が利用する「大活字本」、乳幼児も楽しめる「ぬのえほん」、視覚障害者が利用しやすい「点字資料」等です。

今回は、当館が所蔵する、だれもが楽しんで読むことができる資料の一部を紹介します。

「大活字本」

大活字本とは、大きな活字で印刷されている本のことです。当館では、一般書の大活字本を約２６００冊、児童向けの大活字本を約１４０冊所蔵しています。「文字が大きくて読みやすい。」と好評です。



「沈黙」より
文字の大きさの比較
（左が大活字本、右が文庫本）

「さわる絵本」

さわる絵本とは、本物に近い手触りの素材（紙、布、皮、糸など）を用いて絵を作成し、感触を楽しみながら読む本です。点字がついている本もあります。

「はらぺこあおむし」より

「ぬのえほん」

ぬのえほんとは、本のほとんどの部分に布を用いて作られている本です。中には、ファスナーやボタンがついていて、取り外したり動かしたりして遊ぶことができるものもあります。自分で作ることもでき、作り方が記載された本もあります。

「できるかな」より

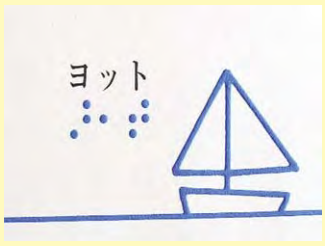
「点字資料」

点字資料とは、点字で書かれた本のことです。

点字資料の中には文字だけでなく、絵も加工して、文字と絵を触って楽しめる本もあります。

「テルミ」は偶数月に発行されている児童向けの雑誌です。青い部分は発泡インクを使用しており、絵も触ることができるようになっています。

迷路や間違い探しなど、遊べるページもあります。



雑誌の「テルミ」より

「ＬＬブック」

ＬＬブックとは、スウェーデンで発祥し、日本語では「やさしく読める本」と訳されている本のことです。書かれた内容を簡単にしたり、写真や絵を用いたりして読みやすくしています。

知的障害のある方や、外国から来て言葉が十分に理解できない方にも楽しんでいただけます。写真だけでストーリーが分かる本や、ピクトグラム（絵文字）がついている本もあります。

「ぼくの家はかえで荘」より
ピクトグラムが付いた本の例

＊今回紹介した本＊

「沈黙　新潮文庫」　遠藤周作／著　新潮社／出版　１９８１．１０
「沈黙１　大活字文庫」　遠藤周作／著　株式会社大活字／出版　２００４．１０
「テルミ　２０１６年８・９月号」　日本児童教育振興財団／発行　集英社／協力
「[点字]はらぺこあおむし　墨字併記　点字つきさわる絵本」
エリック＝カール／さく　もりひさし／やく　偕成社／出版　２００７．１２
「ぬのえほん７　やわらか布知育えほん　できるかな」　株式会社ユニコム／出版　２００５
「ぼくの家はかえで荘　ＬＬブック　－　やさしくよめる本」　小林美津江／監修・文
近澤優衣／絵　酒井博文／写真　社会福祉法人埼玉福祉会／出版　２０１６．１０

＊参考文献＊

「１からわかる図書館の障害者サービス　誰もが使える図書館を目指して」
佐藤聖一／著　学文社／出版　２０１５．２
「視覚障害者サービスマニュアル２００７　情報のバリアフリーをめざす図書館のために」
近畿視覚障害者情報サービス研究協議会／編　読書工房／発行　２００６．１０

ようこそ！こども室へ

こども室には、約１２万冊の児童書があります。おはなし会など本に親しむイベントも行っています。事前の申込みや参加料は不要です。ぜひお越しください。

お　は　な　し　会

本や紙しばいの読み聞かせ、楽しい手あそびもあります。
おはなしの世界を一緒に楽しみませんか。
参加者には「おはなしてちょう」をお配りしています。

日時：　毎週土曜日　午前１１時から（３０分程度）
場所：　こども室
対象：　乳幼児から小学校低学年　※親子での参加も大歓迎です。
◎１２月には、講堂にて「こども大会」という大きなおはなし会も実施予定です。

お　り　が　み　教　室

季節を感じるものや遊べるものなどを、一緒に作ってみませんか？
作品はお持ち帰りいただけます。
材料、道具類は図書館で用意します。

日時：　毎月最後の日曜日　午後３時から（１時間程度）
場所：　こども室
対象：　幼児から小学校低学年

ホームページにも活動の様子を載せています。こちらもどうぞご覧ください。

平成29年度長崎県読書グループ連絡協議会文化講演会（共催事業）

６月２２日（木）に元五島市長の中尾郁子氏を講師にお迎えし、「読書に支えられた私の歩み」と題して文化講演会を開催しました。

九州初の女性市長として有名な中尾氏ですが、五島市の読書グループ「月曜会」に３７年も在籍されている読書家であることをご存知でしょうか。

講演では、中尾氏が市長選に立候補された時の「生まれたての五島市を健康優良児に」というアイデアはロマン・ロランの大著「ジャン・クリストフ」から得たということ、五島市「心のふるさと市民」事業の着想が室生犀星の「ふるさと」という詩からであったこと、さだまさしさんの「解夏」に感激して直接手紙を送り五島市歌の作曲を依頼したことなど実際の体験を交えた貴重なお話を伺うことが出来ました。

これまで多くの本を読んでこられた読書体験が中尾氏の教養をさらに深め、また市長時代の活動を後押ししていたことが分かるお話ばかりで、あらためて読書の素晴らしさを確認できる講演会となりました。

講演終了後も参加者が中尾氏を囲み、感想を伝えたり質問をしたりする姿があり、大変好評のうちに講演会を終えることが出来ました。

《県立長崎図書館公開講座のご案内》

放送大学公開講座

「くすりの知識：品質と効果を最大限に引き出す方法」

講師：放送大学客員教授・長崎大学大学院医歯薬学総合研究科教授　　川上　茂　氏
日時：平成２９年８月６日(日)　１４：００～１６：００
場所：県立長崎図書館　２階　講堂

県立長崎図書館講座（日本銀行長崎支店・長崎県金融広報委員会／共催）

第２回	**「親子向け講座～お金のしくみ～」** 講師：金融広報アドバイザー　小原　隆子　氏 期日：平成２９年９月２３日(土・祝) 場所：県立長崎図書館　４階　研修室　　（※事前の申込みが必要です）
第３回	**「知っておきたい相続のおはなし～争続にならないために～」** 講師：金融広報アドバイザー　羽田　稲子　氏 期日：平成２９年１１月１１日(土) 場所：県立長崎図書館　２階　講堂
第４回	**「私たちの暮らしと日本銀行」** 講師：日本銀行長崎支店 期日：平成３０年２月１０日(土) 場所：県立長崎図書館　２階　講堂

編集・発行　長崎県立長崎図書館　長崎市立山１丁目１番51号
ISSN　1344-5235　ホームページアドレス　http://www.lib.pref.nagasaki.jp